

大阪市障がい者施策推進協議会 発達障がい者支援部会 会議録

日時 平成 29 年 9 月 11 日(水) 14:00～16:00

場所 大阪市役所 屋上階 P 1 共通会議室

開 会

中島障がい者施策部長兼発達障がい者支援室長 あいさつ

資料確認（委員・事務局紹介省略）

部会長選出

委員の互選により田中勝治委員を選出

田中部会長 就任あいさつ

【議題 1 発達障がい者支援センター事業実施状況について】

（鹿野 発達障がい者支援センター副所長）

資料 1 により実施状況説明

（質問・意見など）

岩崎委員

ペアレント・トレーニングについて、広がっているのは良い事だと思うが、ペアトレの呼びかけについてはどのようにされているのか。また、成果・課題について教えてほしい。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

エルムが主催しているものについては、ホームページでお知らせし、ホームページから申込み形式をとっている。ペアトレはグループワークで進めていくので、事前に聞き取り調査を行い、できるだけ同じようなタイプのお子さんがそろうような形でグループを組むようにしている。区役所でも情報提供していただいている。

今年度 17 区で実施している区役所版ペアトレについては、区で募集しており、エルムは講師派遣を行っている。

参加者アンケートでは、こどもに変化があったという回答が多いので、効果があると実感している。

課題としては、グループワークなので、グループの編成をどうするかというのが一番かなと思う。また、単独で参加される方もいらっしゃるが、個別に相談できる場所を持ったうえで進めるほうがより効果があると感じている。

岩崎委員

小さい時から保育所や幼稚園に通っておられるこどもの保護者はあまり相談する場所を持っておられないように思うが、幼稚園や保育所から案内されるケースはあるか。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

幼稚園や保育所で情報提供を受けて利用された方もおられる。

岩崎委員

もうひとつ、機関支援について、最近児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所が全国的に増えており、これらの事業所にも出向かれていると思うが、色々な事業所を訪問しているの印象は。

また、ひとりのお子さんが複数の事業所に通われている場合もある。それぞれの事業所で経験することが調和していればよいが、事業所への訪問ではそういったところまでなかなか分かりにくいと思う。支援の現場では大きな課題であると思っているが、何か考えがあれば聞かせてほしい。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所のニーズは多く、全く立ち上げたばかりで児童もいない段階の事業所から、構造化や評価をきちんと行い、プログラムも作っておられるような事業経験の長いところまで、様々な事業所を訪問している。できれば、職員研修だけで終わるのではなく、お子さんがおられる場合にはコンサルテーションで何度か訪問し、まとめも研修となるように進めたいと考えているが、本当に色々なところがあるなと感じている。

あと、お子さんが色々な事業所と関わっておられるケースについては、後に出てくる専門療育のところでアプローチされていると思うので、そちらでお答えいただければと思う。

岩崎委員

もう一つ、成人支援事業所への訪問も増えているとの事だが、成人支援事業所の主なニーズにはどんなものがあるのか。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

全てを把握しているわけではないが、訪問しているスタッフの話では、自閉症の特徴を持った方で、皆と一緒に過ごすことが苦手な場合の具体的な支援方法であるとか、家庭の状況も踏まえ、どういった事業所でどのような支援を受ければよいかというようなケースワーク的なアドバイスが必要な方もいらっしゃるかなと思う。

福田委員

ペアレント・トレーニングで、思春期のプログラムはあるのか。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

資料には思春期とは表現していないが、今年度も1グループでの実施を予定している。今年で3年目となった。これまでは参加者を募るのが大変だったが、今年度は多数の申込みがあった。知っていただくのに3年かかったのかなと感じている。

溝上委員

エルムが主催する各種講座の周知方法について、最近ホームページを見たが、既に終了しているものや募集が終わっているものも結構あった。親の会として情報提供したいが、講座の情報を手に入れる方法はホームページ以外にはないのか。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

基本はホームページに掲載し周知している。電話での問い合わせもいただくが、まだ具体的に決まっていない場合もあり、決まり次第ホームページにアップするので、随時ホームページを確認してほしいと伝えている。

具体的に決まった段階で、支援室から各区役所へ情報提供していただいている。支援に関わっている方へは情報が伝わるようにはなっていると考えている。

福田委員

講座情報等については、まず区へ伝えていただいて、区が知っていただくことが一番大事だと思っており、その次に親の会等に伝わる仕組みがあればいいと思う。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

親の会等への情報提供については今後検討する。

峯川医務主幹

補足だが、専門療育の申込みにあたって、診断を受けた医療機関を記入いただいております。そこに記載されている主な医療機関・医師にもペアトレや各種講座の案内を送付し、受診されている方に周知いただくようお願いするなど、情報提供に努めている。

溝上委員

何かお知らせの機会があれば、できれば親の会にも周知いただけるとありがたい。

田中部会長

感覚や LD に関する新たな講座（ちょっと気になる子供たちのからだ講座、高学年向け読み書き学習支援）を開催するとのことだが、受講して支援を受けたい場合のソース（資源）はあるのか。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

LD に関しては主に大阪医科大学 LD センター等を紹介することになると思うが、感覚については地域の事業所でも作業療法士を配置されているところもあり、そういったところを紹介している。

田中部会長

学生の就労準備支援事業の報告で、学校に告知したくないという学生さんがおられたとの事だったが、参加されるきっかけは学校からではないのか。

井上委員（発達障がい者支援センター所長）

彼は個別に相談に来られた方。この事業はまだまだ試行なので、知り合いの大学の学生支援者等に声をかけている。昨年度は関西大、大阪市大、大阪経済法科大から紹介いただいたが、どちらかという学校からの紹介よりは個別に相談に来られた方の参加が多い。個別の相談を勧められたのが学生支援室というパターンが最近増えている。

【議題 2 発達障害者支援施策の実施状況等について】

資料 2 により

（松本市立心身障がい者リハビリテーションセンター発達障がい者支援担当課長）

「1 - 専門療育機関の設置」、「5 発達障がい者支援センター（エルムおおさか）」

による地域サポート体制の強化」、「7 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間普及啓発活動」について説明。

(門林こども青少年局管理課副主幹)

「1 - 4・5歳児発達障がい相談」について説明。

(米田こども青少年局保育・幼児教育センター研修・企画担当課長代理)

「1 - 幼稚園教諭・保育士等に対する研修」について説明。

(迫野こども青少年局こども家庭課長)

「2 - 児童養護施設での発達障がい児自立支援事業」について説明。

(石井教育委員会事務局指導部次席指導主事)

「2 - 巡回相談体制の強化」、「2 キャリア教育支援事業」について説明。

(上山教育委員会事務局指導部首席指導主事兼こども相談センター教育相談担当課長)

「2 - 発達障がい研修支援事業」について説明。

(内村福祉局障がい福祉課長)

「発達障がい者就労支援コーディネータ事業」について説明。

(質問・意見など)

岩崎委員

専門療育に関連して、児童発達支援センターでは計画性・継続性をもって療育を行っているが、専門療育機関と並行通所されることがあり、この9月から何人かが並行通所されることになった。児童発達支援センターではこれまで、長きに亘り発達障がいのあるお子さんの支援を行ってきた自負がある。私たちからすると、支援の継続性が途切れるのではないかと危惧している。専門療育機関と支援センターの支援で齟齬が生じるケースも考えられるため、支援センターに通っているお子さんはあえて専門療育に通わせないでもらいたい。それぞれの家庭にはきょうだい関係や夫婦間に背景があり、これまで行ってきた支援にも背景があるので、専門療育機関は他事業所との連携について検討していただきたい。

また、病院等の医師が診断の場面で療育資源を紹介される際、特定の事業所や療育方法に対して否定的な発言をされることがあると聞いている。保護者が混乱するので見直してほしいと思っているが、医師の考えを伺いたい。

松本発達障がい者支援担当課長

専門療育の申込は発達障がい者支援室で行っているが、受付の際に現在通所されている事業所がある場合は、お子さんへの負担感や事業所での支援内容をお伺いし、専門療育機関での支援内容も伝えたくうえで利用について判断していただくようになっている。利用を希望される場合には現在通われている事業所と十分調整していただくような指導も行っている。調整された結果、専門療育の申込みを辞退されたケースも実際にあった。

今後も、通っている事業所と十分相談するよう丁寧に説明していく。

峯川医務主幹

どのような療育機関を選ぶかということについて、全てを把握しているわけではない

が、医師が特定の事業所について何かを言うことはあまりないと思っている。私の場合は4・5歳児発達障がい相談や受給者証の発行手続きは区役所で行っているので、できるだけ区役所で相談し、区が持っている情報を含め地域の色々な資源等の情報を集めていただき、取捨選択されると良いと助言している。

岩崎委員

意見になるが、医師は悪気はないし、ご本人の考えを述べておられるだけだが、それを聞いた保護者はどう思うか、また、現在通っているところもあるわけで、そこをよく相談するよう助言していただいて、最終的には保護者が決めるべきことだと思う。保護者としては専門的な立場の人が勧めるところに行かないで改善が見られなかった場合、後悔すると思うので迷うというような苦しい立場を理解しながら、また、お子さんの療育が全てではなく、きょうだいとのバランスや日常生活も加味しながら総合的にどうするか決めるべきだと思う。

福田委員

キャリア教育支援事業について、保護者見学は良い取組み。こどもの頑張る姿を保護者が見ることで、さらに両方のモチベーションが上がる。また、先生方も保護者が事業内容やこれからの取組みを理解することで頑張ることができると思う。

今後も続けてほしい。

石井教育委員会事務局次席指導主事

応援いただきありがとうございます。学校だけ、教育委員会だけで取組むのではなく、保護者の方がどうっておられるのか、お子さん自身がどう思っているのかということを中心にしながら、これからも取り組んでいきたいと思う。

岩崎委員

幼稚園教諭・保育士に対する研修について、私立幼稚園では障がい児を受け入れにくい状況がある。公立との受け入れ態勢の違いはあるのか。研修をすることによりどのような変化があったか。

米田こども青少年局保育・幼児教育センター研修・企画担当課長代理

答えになるかわからないが、私立幼稚園の研修は大変熱心にされている。また、先生方はすごく想いをもっておられ、今年度も8回実施される予定となっている。

藤本こども青少年局幼稚園運営企画担当課長

私立幼稚園の所管は都道府県となっているため、直接的に市として関わるということが少ない。大阪市が公立幼稚園の民営化に取り組むなかでの課題として、障がい児の受入れがある。障がい児の受入れに係る現行の国や府の補助制度では、経済的に十分な対応は困難であること、受入れるためのノウハウがないことが課題であったため、平成26年度から市として特別支援に関する補助制度をつくった。28年度では支援が必要な児童を350名程度受け入れているところ。

低年齢で入ってこられた場合、発達障がいであるかどうかの判断が非常に難しい、また、家庭生活では保護者は特に問題を感じていないが、集団生活の場で園としては少し気になるような場合、なかなか受容ができない保護者もあり、診断等につながりにくく、ひいては支援につながりにくいといった話も聞く。

私立幼稚園と福祉とのつながりが薄い。今後は区役所とのつながりを持つことも課題と感じている。

【議題 3 次期大阪市障がい者支援計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画の策定について】

(内村福祉局障がい福祉課長)

資料 3 により説明。

(質問・意見など)

岩崎委員

児童発達支援センターについて、国の基本指針では市町村で 1 か所以上とされており、大阪市では既に 11 か所設置されているとのことだが、大阪市は人口も多いので、もう少し身近な場所にあってもいいのかなと思う。また、家族支援や生活支援を行うところ、相談するところがもっと身近にあればというのが我々の実感するところ。考えていただけたら。

【議題 4 その他】

(松本市立心身障がい者リハビリテーションセンター発達障がい者支援担当課長)

資料 4 「切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり」について説明。

(質問・意見など)

岩崎委員

ツールも大事だが、地域で生きていくために、当事者の意思を大事にすることを中心に考えてほしい。

松本発達障がい者支援担当課長

十分考えながらやっていく。最終的にはツールより引継ぎのための仕組みづくりが目的。発言の趣旨を踏まえて検討していきたい。

福田委員

これまでサポートブックなどをつくってきた。ずっと積み上げができるようなものがあれば、それは最終的にこどもの財産になる。よろしく願います。

田中部会長

時間も経過しておりますので、本日予定されている議事については終了とさせていただきます。